園長便り ひ が し

令和６年７月１日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮　伸利

運動会

６月１６日に第５２回目の運動会が行われました。園児はこの日のために一生懸命に練習をしてきました。年少・つぼみさんのリズム「フルフルフルーツ」は、フルーツの帽子をかぶり、ニコニコしながら可愛く踊ることができました。年中さんのリズム「歩いて帰ろう」は、ボンボンを上手に使って隊形移動をしながら踊ることができました。そして、年長さんのフラッグダンスと組体操は、これまでの練習の成果が発揮され、みんな堂々と演技をして私も涙が出るぐらい嬉しかったです。競技には勝ち負けがありますが、一生懸命に頑張る姿に勝ち負けは関係ありません。心を一つにしてやり遂げてことは子ども達の宝物になると思います。

運動会役員の皆様をはじめご家族の皆様、ご声援やご協力をいただきまして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

七　夕

７月７日は「七夕」です。七夕（たなばた）は、日本、中国、朝鮮、台湾などにおける節供のひとつで、日本では明治時代から７月７日に七夕祭りが行われています。古くは七夕は、棚機（たなばた）と表記されていたことから、「七夕」を「たなばた」と発音するのはその名残であると言われています。短冊で思い出す絵本があります。題名は「おこだでませんように」という本です。

１年生の「ぼく」は、いつもおこられる。家でも学校でも、おこられる。ぼくが妹を泣かしたとか、宿題をやっていないとか、おこられる。学校でも、かまきりを持ってきたとか、給食を大盛りにしたとか、友だちとけんかしたとか・・・おこられて、何か言うと、またおこられるから、ぼくは、じっとだまって、おこられる。本当は、「ええ子やねえ」って、言われたいのに、おかあちゃんも、先生も、ぼくを見るときはいつもおこった顔。そんなとき、学校で、七夕の短冊を書くことになった。一番のお願いを、一生懸命考えて、ようやく書いたのは「おこだでませんように」（怒られませんように）

「先生は、じっとたんざくを見た」。「先生は、ずっとぼくのお願いを見ていた」。「先生が、泣いていた」。「『先生…、おこってばかりやったんやね。…ごめんね。よう書けたねぇ。ほんまにええお願いやねぇ」。「先生がほめてくれた！！」「ぼくは　おどろいた。さっそくお願いがかなったからや」。「その日の夜、先生から電話があった」。「電話が終わるとおかあちゃんが、いつも妹にするみたいにぼくをだっこしてくれた」。「『ごめんね、おかあちゃんもおこってばっかりやったね』。そういいながら、おかあちゃんは、ぎゅうっとだきしめてくれた」。・・・

お母さんや先生や友だちに言うのではなく、七夕様のお願いの短冊に、一文字一文字けんめいに書いた「おこだでませんように」。このお話の「ぼく」にとって、それは、まさに天に向けての祈りの言葉なのです。子どもたち一人一人に、その時々で揺れ動く心があります。そして、どの子の心の中にも、祈りのような思いがあるのです。そんな子どもたちの心の動きや祈りのような思いに気づくことができるようになりたいと思いますね。